

人工関節友の会だより

2017.10.1

No.6



くちコミ

病院長 宮尾益尚

今の世の中は様々な情報が溢れ、机に座りパソコンの前にいるだけで、全世界の情報がすぐに入手できる時代です。食文化にしてもグルメ情報など、どの店のどんな料理も瞬時に見る事ができます（勿論味はわかりませんが…）。

しかし、どんな情報を山ほど得たとしても昔ながらの「くちコミ」に優るものは無いかも知れません。

親族から、友人から、「あそこの店のあの料理はすごく美味しかったよ」といった情報をもらったら、「どんな味付けだった？ 見た目の盛り付けも良かった？」などと聞き返す事もでき、その情報を元にその店へ出向く時は、ネット情報のみよりも少しばかりの安心感を持って行けるでしょう。

医療業界もそれと似たような面があります。この業界も書物・インターネット上で情報が溢れかえっており、中には実際に利用された患者様の意見も記載されているケースもありますが、やはり経験された患者様の「生の声」を聞く事ができれば、より安心感を得られると思います。

猫山宮尾病院が積極的に取り組んでいる人工膝・股関節置換術も、経験者から話を聞いて来院される患者様が多数いらっしゃいます。

「手術を受けて、それまでの痛みが無くなり本当に良かった」「痛みのためにできなかった趣味ができるようになり、日々が楽しい」などを術後自覚され、周りの膝・股関節の痛みで困っておられる方々に「手術を勧めるよ」と伝えて頂く事は、私共にとっても非常に喜ばしく、その様な人と人とのコミュニケーションの存在に深い感謝の意を感じています。

しかしその経験を他の方に伝える患者様は、ただ手術を受けて痛みがとれたわけではありません。手術後は痛

みが強かった時期もあるでしょうし、リハビリテーションにしてもすべてニコニコ笑いながらできるわけではなく、「何くそ！」と思いながら頑張って頂いた時期もあったと思います。その苦勞する時期を乗り越えて、初めて「痛みがとれた。手術を受けて良かった」と思う状態に達したという事実も是非お伝え下さい。

「何々さんから聞いて、手術を受ければ治ると思って来ました」という患者様が多数おられます。

勿論手術の説明時には、手術内容・リハビリテーション・合併症についてお伝えしていますが、事前のくちコミ情報の中で、多少の苦勞話も聞いている方は、「自分でもリハビリテーションなどを頑張って治そうと思う」というきちんとした意思を持って来院されるので、治療内容の説明も理解しやすい可能性があります。

いつも患者様にお話しているのは、「我々医療機関のメンバーだけでは治せません。患者様の御理解と御協力が必要です。誰のためでも無い、御自身が良かったと思って頂くために、患者様と医療機関は半分半分の責任を持ち合って、良い結果をお互いに求めて行きましょう」という事です。

人工膝・股関節置換術を受けられ、頑張ってリハビリテーションを進め、素晴らしい結果を獲得した患者様には、膝・股関節痛でお悩みの方々に是非お勧め情報をくちコミで伝えて頂きたいのですが、その時には素晴らしい結果と共に、御自身の苦勞話も少しばかり盛り込んでお伝え下さい。

膨大な情報が溢れる現代においても、人と人の直接のコミュニケーションは非常に大切です。我々も患者様と「言葉」で語り合っていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。